

平成 21 年 2 月の解説（週間天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は北日本から西日本では天気が数日の周期で変わりましたが、天気の崩れは小さくなりました。南西諸島では高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。中旬も東・西日本では天気が数日の周期で変わり、中頃に低気圧が発達しながら日本海を通過したため全国的に南風が強まり気温がかなり高くなりました。北日本は曇りや雨の日が多くなり、南西諸島も曇りの日が多くなりました。下旬は北日本から西日本では低気圧が短い周期で通過したため、曇りや雨または雪の日が多くなりました。南西諸島では晴れて気温の高い日が多くなりました。

月を通しての日照時間は北日本で平年より少なくなりましたが、南西諸島では平年よりかなり多くなりました。降水量は北・西日本で多くなりましたが、南西諸島では平年よりかなり少なくなりました。気温はほぼ全国的に平年よりかなり高く、東日本から南西諸島では平年より 3℃以上高い観測地点もありました。

【2月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年（注）同じ 71%でした。東海、北陸、近畿地方では例年より 5 から 11 ポイント低くなりましたが、その他の地方は例年並みか例年より 2 から 4 ポイント高くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は北海道地方で例年より 0.5℃小さくなりましたが、その他の地方はほぼ例年並みで、全国平均では例年と同じ 2.4℃でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差はほぼ全国的に低く、全国平均では例年より 0.2℃小さい 2.0℃でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の週間天気予報から】

平成 21 年 2 月下旬は、低気圧が短い周期で日本の南海上を通過し、太平洋側を中心に天気がぐずつきました。また、関東地方の週間天気予報では、雨となるか雪となるかの判断が非常に難しい日がありました。

2 月 27 日の関東地方は平地でも雪やみぞれが降り、東京地方でも雪やみぞれとなりました。関東地方では、この日は 7 日前から天気が崩れると予想しており、「曇り一時雨」という予報を発表していました。5 日前から 3 日前にかけては、栃木県や群馬県、埼玉県など、主に関東地方の北部の地域では「曇り一時雨か雪」という雪を含んだ予報を発表し、雪となる可能性も考えていましたが、東京地方はいずれも「曇り一時雨」と発表し、雪を含んだ予報を発表するには至りませんでした。東京地方で「雨か雪」という雪を含む予報を発表したのは、前日の 26 日になってからでした。

本州の南岸を低気圧が通過するときに、関東地方で雪となるか雨となるかは、地上の気温や湿度、風などの条件や、低気圧の発達程度などによっても変わりますが、850hPa（上空約 1500m）の気温が -3℃より低くなるか高くなるかが判断のひとつの目安となります。

図 1 は、平成 21 年 2 月 26 日と 27 日の 21 時の地上天気図と、5 日前の 2 月 22 日発表の予報で使った 26 日と 27 日の予想気圧配置です。26 日から 27 日にかけて関東の南岸を低気圧が通過し、27 日には関東地方で降水が予想されています。予想気圧配置の図の水色の線は 850hPa の気温が -3℃となる予想の線ですが、26 日にはちょうど関東地方を横切っており、降水となった場合、関東地方は雪となるか雨となるかが微妙な予想となっていました。しかし、27 日には -3℃線は次

第に北上して関東地方よりも北になることから、22日に発表した予報では、「27日には、関東地方北部では雪の混じるところがあるが、関東地方南部では雨となる可能性が高い」と考えていました。実際の27日9時の高層気象観測の結果（館野[茨城県つくば市]）でも850hPaの気温は-2.3で、朝9時には-3の等温線は茨城県以北にあったと考えられますが、850hPaから地上にかけての気温が予想していたよりも低くなったため雨とはならず、東京地方でも雪やみぞれが降るという結果になりました。

関東地方の雪は交通障害などを招く恐れがあり、非常に影響の大きいものですが、現在の週間天気予報の技術では、雪となるか雨となるかが、その面的な広がりやタイミングなどを含めて適確に予想することが難しく、直前にならないと予報できない場合があります。できるだけ最新の予報をご利用いただくとともに、予報の利用にあたっては、お住まいの都県だけではなく周辺の都県の天気や、概況も参考にさせていただくようにお願いします。

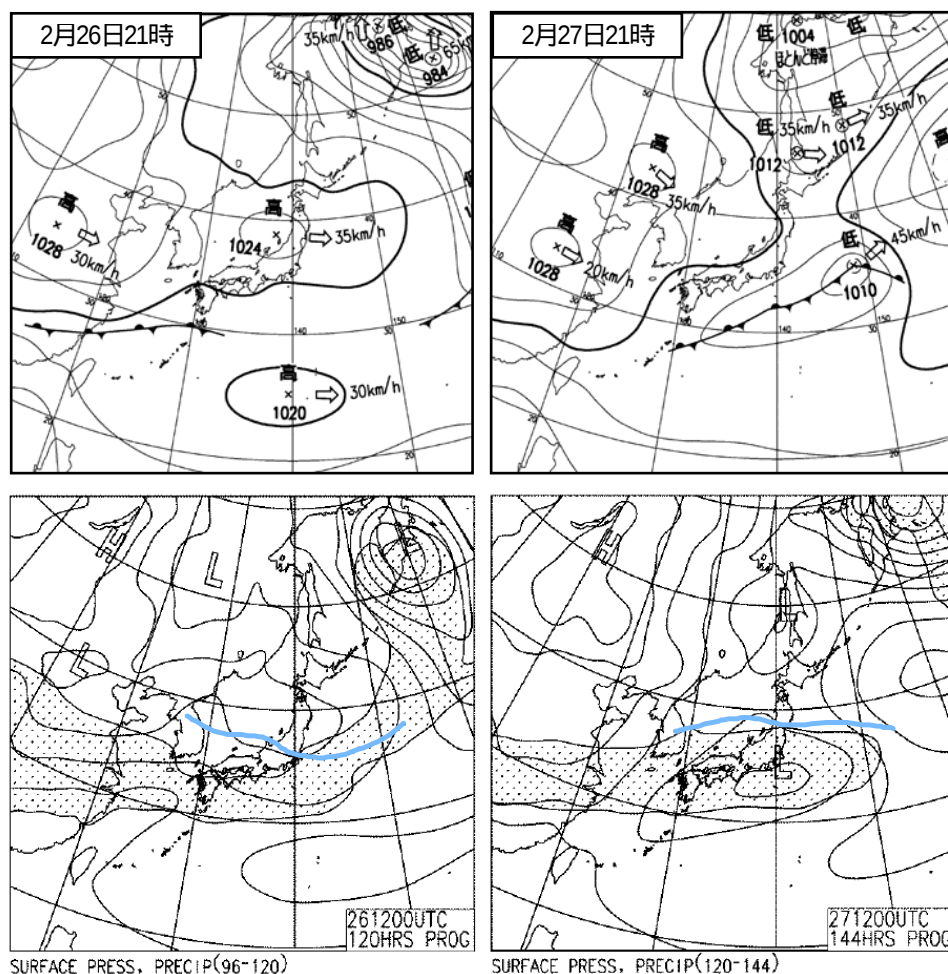


図1 地上天気図(上左：2月26日21時、右：2月27日21時)と2月22日の予報で使用した26日21時(左)と27日21時(右)の予想図(水玉模様は降水が予想される範囲)

水色の太線は850hPaの気温が-3の等温線で、これより北は-3より低い気温が予想されている。

【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4月は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになります。低気圧が通過した後は移動性高気圧に広く覆われるため、晴れて風も弱く日中は穏やかで暖かくなりますが、夜間には放射冷却により地表付近の気温が下がります。このため内陸部や山沿いの地方を中心に霜が降りて、お茶や果樹などの農作物に大きな被害を与えることがあります。

週間天気予報では向こう1週間の日毎の最高・最低気温を予報しています。こうした気温の予報も有効に利用して「遅霜（おそじも）」による被害が心配される場合には、週間天気予報で気温の変化の傾向を把握して直前になって慌てないようにしましょう。